

投稿規定

「日本きのこ学会誌」投稿規定

(平成21年4月30日改定・施行)

1. 「日本きのこ学会誌（以下本誌と言う）」は、日本きのこ学会（以下本会と言う）の学術機関誌であり、本会の編集委員会が編集を行う。原則として年1巻、4号を発行する。
2. きのかの科学・技術とのかの産業の発展に資するものであれば、ジャンルを問わない。また、本会からの会告、ニュース、会員の交流を図るための記事を掲載する。
3. 本誌へは、会員・非会員を問わず投稿できる。
4. 本会に掲載された記事の著作権は、オンライン配布を含み本会に帰属する。著者は原稿の掲載に先立ち著作権に関する所定の契約書に記入、署名して本会に提出する。
5. 論文等の掲載は、投稿者（筆頭著者または責任著者）が、本会の会員の場合、原則として無料とするが、非会員の場合、掲載料（1件8,000円）を徴収する。また、会員であっても、図・表のカラー掲載については有償（1頁50,000円）とする。
6. 使用する言語は日本語または、英語とする。ただし、英語の場合、投稿前に原則として native speaker による校閲を受けるものとする。
7. 原稿の作成は投稿要領に従って行なう。投稿要領に記述されていないことは本誌最新号を参考とする。
8. 原稿の種類
 - (a) 論文：きのかの基礎および応用に関する研究でオリジナリティに富むもの。
 - (b) ノート：きのかに関する断片的な研究であるが、新しい事実や広く利用価値のあるデータを含むもの。
 - (c) 研究レポート：きのかに関する試験、調査等予備的であるが、広く利用価値のあるデータを含むもの。
 - (d) 総説
 - (e) 海外レポート
 - (f) きのか情報
 - (g) 会告
 - (h) 学会記事
 - (i) 書評
 - (j) 随想
 - (k) その他
9. 上記のうち、論文、ノート、研究レポートは未発表のものに限る。
10. 原稿の長さについては、原則として下記の長さを限度とする。下記の範囲内においては、掲載料は無料とするが、これを超えると超過頁料（1頁10,000円）を徴集する。
 - (a) 論文：刷り上がり8頁まで
 - (b) ノート：刷り上がり4頁まで
 - (c) 研究レポート：刷り上がり4頁まで
 - (d) 総説：刷り上がり8頁まで
 - (e) 海外レポート：刷り上がり2頁まで
 - (f) きのか情報：刷り上がり1頁まで
 - (g) 会告：
 - (h) 学会記事：
 - (i) 書評：刷り上がり1頁まで
 - (j) 随想：刷り上がり1頁まで
 - (k) その他：刷り上がり2頁まで
11. 科学研究補助金やその他の各種研究助成金によって行なわれた研究の場合は、原稿本文の最後に設ける謝辞にその旨を記入する。
12. 原稿の審査
 - (a) 編集委員会に届いた論文、ノート、および研究レポート（以下、「論文」という）は、編集委員会の指名した審査員2名（以上）によって審査し、その意見に基づいて編集委員会が採否を決定する。
 - (b) その他の記事（総説、きのか情報、書評、随想、その他）については、必要に応じて審査員を指名するが、原則として編集委員会で採否を決定する。また、これらの原稿は、会員等に依頼できる。
 - (c) 編集委員会は、原稿を会員等に依頼できる。
 - (d) 論文等の内容・文章等について、編集委員長は著者に訂正あるいは疑義の解明を求めることができる。
 - (e) 投稿論文等の採否および掲載の順序は編集委員会が決定する。論文等の審査において訂正を求められた著者が3ヶ月以内に訂正原稿を提出しない場合は、原則として原稿は取り下げたものとして処理する。
 - (f) 原稿の内容が著しく変更されている場合は新規投稿論文として扱い、改めて採否の審査を行う。
13. 受理された論文中の英文は、全て native speaker による校閲を行う。校閲料は著者負担とする。
14. 著者校正

原則として初稿のみとし、速やかに原稿とともに返送する。著者のミスでやむを得ず2稿以降も著者校正が必要となった場合、該当部分の経費は著者が負担する。
15. 原稿の送付

原稿1部のほか、必ず査読用のコピー2部（写真は査読コピー用も必ずオリジナルプリント）を付けて、簡易書留等、送付履歴の確認できる方法で編集委員長宛（送付先は本誌の奥付に表記）宛に送付する。通常郵便等でも受付は可能であるが、紛失等の責任は、編集委員会ではおかない。なお、原稿は原則として著者に返却しない。
16. 別刷

印刷体あるいはPDF形式のファイルを含むCDとする。印刷体：会員・非会員の区別なく購入可（50部単位で代金設定）
PDF形式のファイルを含むCD：筆頭著者及び責任著者の両者が本会会員である場合のみ購入可（刷り上り原稿の頁で代金設定）

投稿要領

「日本きのこ学会誌」投稿要領

(平成22年9月15日改定・平成23年4月1日施行)

1. 投稿原稿の作成要領

原稿はA4版用紙を縦長に用い、和文原稿では1行全角で35字(英文原稿では1行半角で70字)、1頁30行とする。原稿のマージンは2.5cmとする。生物の和名、外来語、外国の人名・地名(原語によらない場合)はカタカナを用いる。数字は和文原稿でも半角とする。投稿の際は、オリジナル原稿1部のほか必ず査読用のコピー2部(写真は査読コピー用も必ずオリジナルプリント)を用意すること。

2. 原稿の作成要領

投稿原稿は、「Microsoft Word」,「一太郎」,あるいはMacintosh版のワープロソフト「Microsoft Word」で作成し、投稿原稿の本文・図・表等を投稿票(本誌各巻1号及び本会HPに掲載)と共に送付する。図はそのまま写真印刷するので原図を送付すること。図に限り上記のワープロソフトに加えPower PointあるいはIllustratorで作成したのももよい。また、改訂を条件に掲載可とされた論文の再送付に際しては、変更箇所を清書し、投稿時と同様、訂正原稿(プリント版及び本文・図・表等)2部、訂正原稿の電子ファイルを保存したCD1枚及び審査意見とそれに対する回答、各2部を添付し、編集委員長(送付先は本誌の奥付に表記)宛に送付する。前記以外のワープロソフトやフォーマットで作成したCDは編集委員会としては原則として取り扱わない。編集作業の軽減と編集費の低減をはかるため、提出されたCDは返却しない。

最終原稿を送付する際には、印刷体の別刷り(有償)の請求部数及びPDF形式のファイルを含むCD(有償)の希望の有無、図のカラー掲載(有償)希望の有無を最終原稿送付票(本誌各巻1号及び本会HPに掲載)に必ず記入すること。

英文原稿及び和文原稿における英文部分(Abstract及び英語で記述された図・表等)は、投稿時における英文校閲の有無に関わらず、編集委員会の責任において最終原稿投稿後にnative speakerによる英文校閲を行う(校閲料は著者負担)。同校閲の結果は原則としてe-mailの添付ファイルで連絡するので、同校閲結果を参照して最終原稿の訂正原稿をe-mailの添付ファイルで編集委員長宛に送付する。

3. 原稿の構成

論文・ノート・研究レポートは、以下の形式に従い構成する。その他の範疇の原稿は特に形式を定めないが、本誌の最近の掲載例に従って作成することが望ましい。本文中で使用する和文の句読点は、カンマとピリオドとする。

3.1 論文・ノート・研究レポート

3.1.1. 論文

[和文の場合]

(a) 表紙

各種農林廃棄物で栽培したクロアワビタケの一種, *Pleurotus cystidiosus* subsp. *abalonus* の収穫後子実体のテクスチャー

Binh Nguyen TRUONG^{1,2)*,†}・鈴木 彰³⁾・
中谷 誠⁴⁾・Xuan Tham LE⁵⁾

¹⁾ Department of Micro-biotechnology, Tropical Biology Institute in Ho Chi Minh City-Branch of Dalat, 116-Xo Viet Nghe, Tinh Street, Dalat, Vietnam

²⁾ 千葉大学大学院自然科学研究科
〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町1-33

³⁾ 千葉大学教育学部
〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町1-33

⁴⁾ 北海道立林産試験場
〒071-0198 北海道旭川市西神楽1線10号

⁵⁾ Center for Nuclear Techniques, Vietnam Atomic Energy Commission, 217 Nguyen Trai Street, District 1, Ho Chi Minh, Vietnam

[†] 現在の住所: Division of Micro-biotechnology, Tay Nguyen Institute of Biology, Vietnam Academy Institute of Science and Technology, 116-Xo Viet Nghe Tinh Street, Dalat, Vietnam

*責任著者: (e-mail address)

(b) Abstract (200語以内)

(c) Key words (英語で5語以内をアルファベット順に掲載; 頭文字は大文字で記述)

(d) 緒言

(e) 材料と方法

(f) 結果 (必要に応じて、「結果と考察」としてもよい。)

(g) 考察

(h) 謝辞

(i) 和文摘要(和文: 400字以内)

(j) 引用文献

(k) 表

(l) 図の説明

(m) 図

表紙, Abstract (直後にKey wordsを掲載), 本文, 和文摘要, 表, 図, 図の説明はそれぞれ別紙とする。

3.1.2. [英文の場合]

(a) Title page

著者名: First (given) name, middle name, family nameの順とし, first nameとmiddle nameは頭文字のみを大文字とする。一方, family nameはすべて大

文字で表記する。著者名の Junior は Jr と略記とし、ピリオドは省略する。

住 所：英文原稿において、地名はスペルアウトする。ただし、国名については、汎用される略記を用いてもよい。ただし、同一原稿内での住所の表記形式は統一すること。

Regular Paper

Changes in texture of the post-harvest fruit-bodies of an abalone mushroom, *Pleurotus cystidiosus* subsp. *abalonus*, cultivated on different agro-forestry wastes

Binh Nguyen TRUONG^{1, 2)*, †}, Akira SUZUKI³⁾,
Makoto NAKAYA⁴⁾ and Xuan Tham LE⁵⁾

¹⁾ Department of Micro-biotechnology, Tropical Biology Institute in Ho Chi Minh City-Branch of Dalat, 116-Xo Viet Nghe, Tinh Street, Dalat, Vietnam

²⁾ Graduate School of Science and Technology, Chiba University, 1-33 Yayoi-cho, Inage-ku, Chiba 263-8522, Japan

³⁾ Faculty of Education, Chiba University, 1-33 Yayoi-cho, Inage-ku, Chiba 263-8522, Japan

⁴⁾ Hokkaido Forest Products Research Institute, 1-10 Nishikagura, Asahikawa, Hokkaido, 071-0198 Japan

⁵⁾ Center for Nuclear Techniques, Vietnam Atomic Energy Commission, 217 Nguyen Trai Street., District. 1, Ho Chi Minh, Vietnam

† Present Address: Division of Microbiotechnology, Tay Nguyen Institute of Biology, Vietnam Academy Institute of Science and Technology, 116-Xo Viet Nghe Tinh Street, Dalat, Vietnam

* Corresponding author; (e-mail address)

- (b) Abstract (200 語以内)
- (c) Key words (5 語以内をアルファベット順に掲載；頭文字は大文字で記述)
- (d) Introduction
- (e) Materials and Methods
- (f) Results (必要に応じて、Results and Discussion としてもよい。)
- (g) Discussion
- (h) Acknowledgement(s)
- (i) 和文摘要 (400 字以内)
- (j) Reference(s)
- (k) Table(s)
- (l) Figure legend(s)
- (m) Figure(s)

表紙, Abstract (直後に Key words を掲載), 本文, 和文摘要, Table(s), Figure(s), Figure legend(s) はそれぞれ別紙とする。

4. 引用文献の取り扱い

4.1. 本文中での文献の引用方法

和文原稿, 英文原稿共に肩付きの数字で示す。

(例)

シイタケの栽培の報告は, 1 つしかない¹⁾。

シイタケの栽培の報告は, 多数存在する¹⁻⁵⁾。

シイタケの栽培の報告は, 多数存在する^{1, 3, 5)}。

4.2. 引用文献 [Reference(s)] の掲載方法

下記の例に従って表記すること。該当例の示されていないものではこれらに準じた表記方法をとる。

4.2.1. 英語以外の外国語の雑誌, 単行文等の表記方法

英語表記で行い, 引用の最後に該当言語名を英文で明記する。

(例) (in Russian)

4.2.2. 未公表の論文等の表記方法

掲載決定の公式通知を受けた記事に限り認める。引用する場合は, 雑誌名のあとに「印刷中」, または「(in press)」と記述する。ただし, 掲載決定が得られていない投稿中の論文等は引用しないこと。

印刷中のため発行年, 巻, 頁等が未定の場合は決定部分まで記述する。

4.2.3. 編集, 監修, 巻・号の表記方法

編集, 監修: 編集は「今関六也・本郷次雄(編)」あるいは「Imazeki, R and Hongo, T (eds)」のように表記する。5 名以上の編者がいる場合を除きすべての編者名を記述する。編者が 5 名以上になる場合に限り, 5 名の編者名に続けて「他」あるいは「et al.」を続けて記述することで代替する。監修は「本郷次雄(監)」のように表記する。英文表記では監修者と編集者を区別する必要は特になく, すべて「ed (s)」と記述する。

4.2.4. 版の表記方法

初版を除き明記する。英文表記では「edn」とする。

a. 巻数の表記方法

和文原稿, 英文原稿共にアラビア数字を用い, すべてボールドで表記する。雑誌等の引用では, 和文原稿, 英文原稿共にアラビア数字のみで表記するが, その他の刊行物では「Vol」をアラビア数字の直前に添える。原本の巻数の表記がアラビア数字以外のものでも, 巻数はすべてアラビア数字で表記する。

b. 号数の表記方法

和文表記, 英文表記共に同一巻で通し頁としていない場合に限り巻数の直後に小括弧で囲み号数を表記する。「巻」としての表記がなく「号」としての表記のみで発行されている雑誌等は, 「巻」として読み替えて取り扱う。

c. 頁の表記方法

和文原稿, 英文原稿共に, 総頁を引用する場合は総頁数の直後に「p」を, 一部を引用する場合は「pp」の直後に該当する初出頁と最終頁を表記する。該当する部分が 1 頁の場合は「p」と表記する。

d. 単行本等に掲載されている記事の扱い

発行所名と発行所の所在都市名とその都市の所属国名（都市名は略記しないこと）を記述する。発行都市が複数あるものでは最初に表記されているものだけでよい。

e. 和文論文における和文記事の引用の仕方

和文雑誌名：正式名称を記載し、略称は公式のものが存在しても用いない。同一名称の雑誌がある場合は、出版地名を加える。国名は不要。

英文雑誌名：英文論文における英文雑誌の引用方法に準じる。

[和文記事表記例]

i. 学術雑誌・科学雑誌

(例)

- 1) 時本景亮：シイタケ原木栽培の基礎，日本きのこ学会誌，**18**, 131-138 (2010)
- 2) 寺嶋芳江・渡辺智子・鈴木垂夕帆・白坂憲章・寺下隆夫：シイタケ栽培培地へ添加したトレハロースの子実体への影響 III - 培地へのトレハロース注入の時期と量の違いが子実体の発生量，傘径の大きさ，鮮度保持，トレハロース含有量と回収率へ及ぼす影響 -，日本きのこ学会誌，**18**, 57-62 (2010)
- 3) 高島幸司：ナメコ，エノキタケ廃菌床を利用したヤマブシタケ菌床栽培，日本きのこ学会誌，**17**, (2009) (印刷中)

ii. 単行本

(全体を引用)

(例)

- 1) 小川 真：マツタケの生物学，補訂版，築地書館，東京，333 p (1991)

(特定部分を引用)

(例)

- 1) 吉田 博：きのこの化学成分特性，「きのこの基礎科学と最新技術」（きのこ技術集談会編集委員会編），農村文化社，東京，pp 94-108 (1991)
- 2) 北本 豊・鈴木 彰：生理，「きのこ学」（古川久彦編）共立出版，東京，pp 79-115 (1992)
- 3) 山中勝次：キノコ好きの調理法，「キノコ・ワールド最前線」，東京書籍，東京，pp 211-224 (2003)

iii. 翻訳書

(例)

- 1) Freifelder, D: 「分子生物学の基礎」(川喜多正夫訳)，東京化学同人，東京，pp 61-64 (1989)
翻訳書の総頁を引用する場合は，単行本の総頁の引用様式に準じる。

iv. プロシーディング・要旨集の引用の仕方

(例)

- 1) 会見忠則：加熱調理したきのこ DNA 鑑定とその

迅速化，日本きのこ学会第 13 回大会講要旨集，西宮，pp 27-28 (2009)

v. 学位論文

(例)

- 1) 佐藤隆士：セモンホソオオキノコムシのシイタケ子実体上での生活環と生殖活動に関する基礎研究，博士学位論文，千葉大学，155 p (1999)

博士学位論文の引用では略記しない。また，修士学位論文，卒業論文（学士）は引用の対象としないこと。

和文論文における英文記事の引用の仕方は英文論文における英文記事の引用の仕方に準じる。

vi. 統計情報等

(例)

- 1) 林野庁：平成 21 年度の主要な特用林産物の生産動向，(2009)

[英文記事表記例]

i. 著者名：Family name, first (given) name, middle name の順とし，family name と first name の間はカンマで区切る。First name はすべて大文字で表記する。First name と middle name は頭文字のみとし，略記の後のピリオドは省略する。

i. 学術雑誌・科学雑誌

英文雑誌名：略称を用いる。雑誌名の略称は，PubMed のジャーナルデータベース；<http://hwww.ncbi.nlm.nih.gov/sites/entrez?db=PubMed> に従う。雑誌名中の国名の表記に限り本データベースの表記方法に従う。雑誌略称のあとのピリオドは省略する。なお，日本きのこ学会誌は Mushroom Sci Biotechnol と表記する。

(例)

- 1) Maekawa, N: *Ypsilonidium bananisporum* sp. nov. (Ceratobasidiales) from Iriomote Island, Japan, Mycoscience, **38**, 71-73 (1997)
- 2) Shimomura, N, Aimi, T, Otani, H and Park, P: Cytological features of ectomycorrhizae aseptically synthesized between *Rhizopogon roseolus* (shoro) and *Pinus thunbergii*, Mushroom Sci Biotechnol, **18**, 103-106 (2010)

Proceedings でも不定期に同一タイトルで連続巻号をうって発行されているものは学術雑誌扱いとする。

和文雑誌名：原則的にローマ字でスペルアウト（省略しない）。必ず，「in Japanese」を入れる。但し，公式英文名があるものは，公式英文名を用いる。

(例)

- 1) Hidaka, F, Li, Y, Shimomura, N, Maeta, K, Nagase, M and Aimi, T: Development of semi-direct polymerase chain reaction method for mushrooms, Mushroom Sci Biotechnol, (in Japanese) (2010) (in press)

ii. 単行本

(和文単行本の引用)

和文単行本名は原則としてローマ字でそのまま表記し、英訳の必要はない。和文単行本を引用する場合は、必ず (in Japanese) を入れる。但し、タイトル等に公式の英文表記があるものは、公式英文名を括弧内に必ず併記すること。タイトル等に公式の英文表記がないものでも、必要とあれば、該当部分の英訳を括弧内に併記してもよい。

(a) 和文単行本

公式英文がある場合

(例)

- 1) Hongo, T: Benitakeka (Russulaceae), In: Imazeki, R and Hongo, T (eds), Genshoku Nippon Shin Kinrui Zukan (II) (Colored illustrations of mushrooms of Japan), Vol 2, Hoikusha, Osaka, Japan, pp 82-91 (in Japanese) (1989)

公式英文がない場合

以下の2形式のうちのいずれかで記述する。

(例)

- 1) Horikoshi, T and Suzuki, A: Kinoko no Isshou, Tsukiji Shokan, Tokyo, Japan, 163 p (1990)
- 2) Horikoshi, T and Suzuki, A: Kinoko no Isshou (Life cycle of mushrooms), Tsukiji Shokan, Tokyo, Japan, 163 p (in Japanese) (1990)

(英文単行本の引用)

(例)

- 1) Sagara, N: Experimental disturbances and epigenous fungi. In: Carroll, G C, Wicklow, D T (eds), The fungal community -its organization and role in the ecosystem, 2nd edn, Dekker, New York, USA, pp 427-454 (1992)

iii. プロシーディング・要旨集に掲載されている記事の扱い
(例)

- 1) Aimi, T, Ohnishi, Y, Nagase, M, Ichianagi, Y and Kitamoto, Y: Recognition and degradation of insoluble crystalline cellulose by *Polyporus arcularius*, Proc 6th Internatl Conf Mushroom Biol Mushroom Prod, Bonn, Germany, pp 112-114 (2008)
- 2) Suzuki, A: Propagation strategy of ammonia fungi, Abst 8th Internatl Mycol Congress (IMC8), Cairns, Australia, p 114 (2006)

和文のプロシーディング・要旨集の記事を引用する場合は単行本等の記述例に準じる。

iv. 学位論文の扱い

博士学位論文の引用では略号は用いない。また、修士学位論文、学部卒業論文(学士)は引用の対象としないこと。

(例)

- 1) Ikehata, K: Production, characterization and evaluation of Coprinus peroxidase for phenolic waste water treatment, Doctoral Thesis, University of Alberta, Edmonton, Alberta, Canada, 279 p (2003)

v. 統計情報等

- 1) Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries: Annual report on trends in forest and forestry in Japan (2009)

和文の学位論文を引用する場合は、単行本等の記述例に準じる。

5. 単位の取り扱い

数字はアラビア数字を用い、数量の単位は、原則として国際単位系(SI)を用いる。但し、表1に示した範囲で非SI系の単位の使用を認める。

6. 物質名の取り扱い

和文論文における化学物質名の表記は、原則として、カタカナあるいはカタカナと漢字の混交、もしくは元素記号、化学式とする。

英文論文における化学物質名の表記は、原則として、英語もしくは元素記号、化学式とする。

同一原稿中では、可能な限り化学物質名の表記方法の混用は行わない。略記する場合は、初出時に断り書きをする。表2には定義せずに使用できる物質名の略称を示した。

7. 生物名の取り扱い

和文論文: 生物名は、和名(カタカナ)を用い、本文の初出の箇所では和名と学名を併記する。和名のないものでは、学名のみとなる。和文論文では、和名と学名のどちらを優先するか、著者にまかせる。

英文論文: 学名の属名以下はイタリック体表示する。再出する場合、属名は文頭にくる場合を除き頭文字1字(本文中で異なる属名のアルファベットが同一となる場合は区別のつく最少字数とする)のみとする。必要があれば、再出時でもスペルアウトしてもよい。培地材料となる生物名もきのこの学名と同様に表記する。

英文論文でも Shiitake のような common name のみの表記を認めるが、初出の箇所で学名を併記する。

8. 培地名の取り扱い

略記を用いる場合は、初出時に断り書きをする。天然物由来の混合物質(培地素材を含む)は、論文表記事項だけで追試を可能とさせる情報のすべてを記述する。例えば、「実験材料」の部分で、生産メーカー名を表記する。また、おがくずのように粉末状、顆粒状の培地素材においてはメッシュサイズ等を明記する。

9. 略号、略記の取り扱い

物質名以外で定義せずに使用できる略号、略記は、表

3 に示したものに限る.

10. 別刷り等

印刷体による別刷り（有償）及び PDF ファイル形式による原稿を掲載した CD（有償）の希望の詳細は、原稿の校正時に印刷所から問い合わせる。これらの請求も、印刷所が行なう。

11. 英文校閲料等

英文校閲料等とその他の有償経費（投稿料、超過頁料、カラー掲載料）の請求は、印刷所が編集委員会に代行して行なう。

表 1. 本誌での使用を推奨する単位の表記例.

長さ m, mm, μm , nm 等

面積 m^2 , cm^2 , mm^2 等

[必要であれば a, ha も使用可]

体積 m^3 , dm^3 (あるいは L), cm^3 (あるいは mL), mm^3 等

波長 nm (μm や Å は使用不可).

時間 yr (yrs としない), mo, wk (wks としない), d, h (hrs としない), min, s (sec としない), ms, μs 等

注: 図・表では、タイトル部分を除きこれらの略記 (略号) を用いること。ただし、本文中では、これらの略記 (略号) は必ずしも用いなくてもよい。

周波数・振動数 Hz

質量 kg, g, mg, μg , pg 等

[必要とあれば t も使用可]

分子や原子の質量 Da

密度 $\text{g}\cdot\text{cm}^{-3}$

力 N ($\text{kg}\cdot\text{m}\cdot\text{s}^{-2}$)

エネルギー J

[必要であれば cal も可とするが、使用は極力避けること]

圧力 Pa ($\text{N}\cdot\text{m}^{-2}$)

沈降係数 $S=10^{13}\text{s}$

粘性 $P=0.1\text{ Pa}\cdot\text{S}$

仕事率 $W:\text{kg}\cdot\text{m}^2\cdot\text{s}^{-3}$

物質量 mol, mmol, μmol 等

濃度 M, mM, μM , pM 等

[濃度の表示は相対的な比率表示の %, ppm, ppb, ppt でもよい。但し、後者にあつては、体積基準か重量基準化を明記すること.]

(例) [ppm (v/v), おがこ: 米ヌカ [生重 (fresh wt)/生重 (fresh wt)], 酢酸: エタノール (v/v), 10% 硫酸銅五水和物 ($\text{CuSO}_4\cdot 5\text{H}_2\text{O}$) 水溶液 [化学物質濃度は、特に断らない限り重量比]

温度 $^{\circ}\text{C}$

[温度に限り、SI の基本単位である K は、特に必要な場合を除き用いない.]

電流 A

電圧 V

抵抗 Ω

光度 cd

照度 lx

[光質の影響があるので、光の強度の代用にはならないが、光質が限定できる場合は必要に応じて使用可]

紫外線照射量 $\text{J}\cdot\text{cm}^{-2}$

放射能の量 Bq

放射線の吸収線量 Gy

放射線の線量当量 Sv

表 2. 定義なしに利用可能な物質の略号.

ADP (adenosine 5'-diphosphate)
 AMP (adenosine 5'-monophosphate)
 BSA (bovine serum albumin)
 cAMP (cyclic adenosine 3',5'-monophosphate)
 ATP (adenosine 5'-triphosphate)
 ATPase (adenosine triphosphatase)
 CDP (cytidine 5'-diphosphate)
 CMP (cytidine 5'-monophosphate)
 CoA (coenzyme A)
 CTP (cytidine 5'-triphosphate)
 DEAE (diethylaminoethyl)
 DNA (deoxyribonucleic acid)
 DNase (deoxyribonuclease)
 EDTA (ethylenediaminetetraacetic acid)
 FAD (flavin adenine dinucleotide)
 FMN (flavin mononucleotide)
 GDP (guanosine 5'-diphosphate)
 GMP (guanosine 5'-monophosphate)
 GTP (guanosine 5'-triphosphate)
 IDP (inosine 5'-diphosphate)
 IMP (inosine 5'-monophosphate)
 ITP (inosine 5'-triphosphate)
 NAD, NAD⁺ (nicotinamide adenine dinucleotide)
 NADH (reduced NAD)
 NADP, NADP⁺ (nicotinamide adenine dinucleotide phosphate)
 NADPH (reduced NADP)
 NMN (nicotinamide mononucleotide)
 RNA (ribonucleic acid)
 mRNA (messenger RNA)
 rRNA (ribosomal RNA)
 tRNA (transfer RNA)
 RNase (ribonuclease)
 TDP (thymidine 5'-diphosphate)
 TMP (thymidine 5'-monophosphate)
 Tris (tris (hydroxy methyl)aminomethane)
 TTP (thymidine 5'-triphosphate)
 DDP (uridine 5'-diphosphate)
 UMP (uridine 5'-monophosphate)
 UTP (uridine 5'-triphosphate)

† その他, 核酸塩基の略称

タンパク質を構成するアミノ酸の略称

表 3. 定義せず使用可能な略語.

BOD (biochemical oxygen demand)
 bp (base pair)
 ca.(about)
 cf. (compare)
 COD (chemical oxygen demand)
 concn (concentration; 表中の見出し及び図中のみ使用可)
 contr. (control; 表中の見出し及び図中のみ使用可)
 cpm (counts per minute)
 DO (dissolved oxygen)
 dpm (disintegration per minute)
 ed. (editor; pls. eds.; 引用文献中ではピリオドなし)
 edn. (edition; 引用文献中ではピリオドなし)
 e.g. (for example)
 ELISA (enzyme-linked immunosorbent assay)
 Eq. (pl.Eqs.) Equation (特定公式に言及する際のみ使用可;
 e.g. Eq. 2)
 et al. (and others) (原則として本文中の引用の際のみ使用可;
 著者が3名以上の場合に限る.)
 etc. (et cetra; and so on)
 expt. (pl. expts.) (特定の実験番号に言及する時のみ使用可)
 FR (far red)
 GC-MS (gas chromatography-mass spectrometry)
 HPLC (high-performance liquid chromatography, high-pressure liquid chromatography)
 i.e. (that is)
 IR (infrared)
 LD50 (lethal dose, median)
 max. (maximum)
 min. (minimum)
 MLD (minimum lethal dose)
m-, p-, o-, (meta-, para-, ortho-; 有機物質の場合のみ使用可)
 m.p. (melting point)
 MS (mass spectrometry)
 m/z (mass-to-charge ratio)
n- (normal; 有機物質の場合のみ使用可)
 NMR (nuclear magnetic resonance)
 no. (number; 本文中で数値が後ろにある場合, 表中の見出し及び図中のみ使用可. # は数値が後ろに続く場合のみ使用可)
 NUV (near ultra violet)
 OD (optical density)
 % (percent; 数値が後ろに続く場合のみ使用可)
 opt. optimum
 p. (pl.pp.) (page; 引用文献中ではピリオドなし)
 PCR (polymerase chain reaction)
 ppb (parts per billion)

ppm (parts per million)
ppt. (precipitate)
Rf (distance traveled by zone, divided by distance traveled by solvent front)
rpm (revolution per minute)
RQ (respiratory quotient)
SD (standard deviation; STDEV は用いない)
SDS-PAGE (sodium dodecyl sulfate-polyacrylamide gel electrophoresis)
SE (standard error)
SEM (scanning electron microscope)
sec- (secondary; 有機物質名にのみ使用可)
sp. (pl.spp.) (species)
TEM (transmission electron microscope)
temp (temperature; 表中の見出し及び図中のみ使用可)

tert-(t-) (tertiary; 有機物質名にのみ使用可)
TLC (thin-layer chromatography)
UV (ultraviolet)
vol. (pl., vols.) (volumes; 前後いずれかに数値が続く場合のみ使用可. 引用文献中では v を大文字としピリオドなし)*
vs. (versus)
vvm (volume per volume per minute)
wt (weight)*
* 組成比を表記する場合のみ v/v, v/w, w/v, w/w と略記する.

注：図・表では、タイトル部分を除きこれらの略記（略号）を用いること。ただし、本文中では、これらの略記（略号）は必ずしも用いなくてもよい。